

## 第8回 みやまえ活性部会 ～スモールビジネスで地域貢献～ 摘録

**日 時**：平成 29 年 7 月 14 日（金）18:00～20:00

**場 所**：区役所第 1 会議室

**出席委員**：佐藤部会長、川田委員長、影山副委員長、荒川委員、老門（泰）委員、黒沢委員、田辺委員、山田委員、山辺委員（9 名）

**欠席委員**：大木委員（1 名）

**資 料**：次第

資料 1 委員名簿

資料 2 第 6 期スケジュール案

資料 3 みやまえ活性部会検討メモ

資料 4 クラフト市事例（ゆ～ずツクルブ ゆ～ずパーティ）

その他 佐藤部会長 論点整理メモ（佐藤部会長より）

### ■資料確認

#### 1. 議事

- (1) 取り組み提案の検討について
- (2) その他

#### 2. その他の連絡事項

今後の日程等の確認など

## 第8回 みやまえ活性部会 審議結果要点メモ

※各意見の詳細等は次ページ以降参照

### 課題・部会の目指すもの

- **ターゲット**…若い世代 20～50代の現役世代、子育て中の母親など  
地域とのつながりが薄い世代
- **課題①**…埋もれた技術・知識＝何か作ったり、教えたりできる の発掘  
形のないサービスの提供者、農業の担い手、福祉作業所なども含む
- **課題②**…地域とのつながり・地域での活躍の場づくり  
人と人・地域とのつながりづくり、地域イベントの創出・参加など
- **目標①**…地域活性化、地域の魅力アップ、地域貢献
- **目標②**…スモールビジネス創出、少なからず利益→商店街活性化（二次目標）

### 取組提案：(仮称) 作家連盟 (名称要検討)

- **組織**…●区内クリエイターの協議会的組織の立ち上げ
  - 既存団体やイベント、個人のゆるやかな交流・情報交換・連携
  - 自主的、主体的に長く運営を続けられる場（参加負担軽）
- **機能**…○相互の連絡・交流・相談・紹介の場
  - 人材・グループ・イベント・スペース等の地域資源の情報収集  
→情報の活用・仲介・紹介へ 負担にならない形でリスト化？
  - 地域での作品発表・販売等の場づくり  
→参加・出展等が可能な地域イベント・地域施設等の発掘・紹介  
→クラフト市の企画・開催等の支援（人・物・金・場・情報など）
- **事例**…①ゆ～ずツクルブの「ゆ～ずパーティ」  
地域諸団体との連携による小地域でのクラフト市開催  
※タイプの異なる事例を複数集め、提示したい
- **担い手**…「地域でお友達・お仕事さがし」（2回開催）参加者をまず想定
- **進め方**…第3回地域でお友達・お仕事さがし開催…構想説明、参加を募る  
8/4部会で組織のイメージ・規約等のたたき台作成（予備日8/21）  
開催目標を9月下旬とし、一か月以上前から広報・参加者募集

### その他の検討事項・情報

- ・向ヶ丘町連事業協力推進委員会→クラフト市開催に向けた動き
- ・泉福寺イベント 社協会長のお寺 地域の商店・団体が多く参加
- ・地域福祉フェスティバル 12月3日 市民館全館が会場
- ・SHOP IN SHOP→商店側の意見の収集、発表・交流を主眼とした場づくり、  
メガロス（スポーツクラブ）でのモデル実施？

## 討議の記録（意見詳細）

### ■佐藤部会長 別紙資料説明の主旨

※以下は説明内容の要旨。その他詳細は別紙資料参照

- ・ 少し困っている人を今より良くしてくことを目指す。ターゲットは個人商店やクリエイター、技術を持っているが地域の中で埋もれている人を想定。
- ・ 衰退商店街の活性化とマッチングして双方が幸せになることで地域貢献にもなる形を目指す「SHOP IN SHOP」などのアイデアが出た。
- ・ 区内でイベントやグループは沢山存在する事がわかってきた。これらの団体をゆるやかに、長く続けて行けるような形をつないでいけると良さそうだ。
- ・ 無償ボランティアの継続・確保が難しくなっているとの話もあった。少しでも報酬があれば、負担感なく地域貢献ができるようになるのではないか。
- ・ ネット時代に地域で仕事をする必要がないという意見もあったが、宮前区の22万人の人口規模を考えると地域にチャンスがたくさんあるのではないか。
- ・ 地域に様々なお店や仕事があることは定住に向けた魅力にもなる。
- ・ 「(仮称)作家連盟」の様なものを立ち上げ、リストアップした人のつながりづくりに今期終了以降も継続できるような形で取り組んではどうか。私も一人の作り手として、継続的に関わっていければと考えている。
- ・ 年度末のフォーラムは、時間枠を長く考え、展示と販売の両方や、両部会の情報交換・交流を創出できるような企画ができないか。

### ■意見交換■

田辺委員 これまで集まっていたいただいた方はセミプロレベルの方が多かった。

職業としてやっておられるプロとはレベルや意識に差があるのではないか。

商店街の衰退は私も感じるが、まだあまり議論できていない。ビジネスや商店街の活性化にまでつなげるのは難しいのではないか。

佐藤委員 販売イベント等で作品が売れるかどうかは、プロかどうかではなく、お客さん次第、作品次第だ。

黒澤委員 私の地域の蔵敷商店街は非常な努力で70店舗程の商店数を維持している。区民会議として何か、活性化のアイデアを出せば意義がある。

田辺委員 新しい販売イベントではなく、既存の地域のイベントに作家さん方が参加していく事で、地域での人のつながりを発展させていくことが筋だ。

商店街活性化はビジネスコンサルタントの領域で、区民会議では手を出せないと感じる。第一目的は地域の活性化。セミプロ、子育て中の母親の様な方々

に焦点を絞った方が実現しやすいのではないか。

佐藤委員 (仮称) 作家連盟をセミプロに絞ってつくるといえることでしょうか。

田辺委員 例えば区内には「パン工房ひよこ」など、福祉施設による作品づくり・販売の取り組みも幾つかある。こうした方々にも地域で新たな販売の場を提供してあれば、販路や人のつながりが広がるのではないか。

川田委員 ネット販売など、個人でやっている方もおり、プロアマの線引きも難しくなっている。プロかどうかは重要ではないと思う。

取り組みを通じて、地域に若い世代を取り込んでいく為の受け皿をつくりたい。地域の物作りが好きな人に作品を出品・販売できる場所を提供できれば、ちょっとした収入やその人の自信につながっていくのではないか。

特に私が気になっているのは、地域で場を求めている方。これまでの参加者中の稗原地域の方と稗原ゆ〜ず連絡会を繋げて、先日イベントを開催した。若い人は思いがあっても、場所やお金、情報を持っていないことがある。そこで地域と繋がることで相談にのったり、地域ができる支援とマッチングしたりして、その方々が地域で活躍できる場所をつくっていくイメージだ。

SHOP IN SHOP も商店街活性化ではなく、若い世代の活躍の場から出てきた話だ。新しい出会いや組合せができるのではないか。

影山部会長 地域の若い方や主婦の方、意識はあるが場や情報が無い方に光をあてたい。マルシェの関係者が鷺沼駅の近くで会場を確保し、取り組みを実現させるまで三年かかったという話を聞いて、「そうした方々を放ったらかしにしてきたのではないか」と感じた。

SHOP IN SHOP の事例で紹介させていただいたのは、区内の家具屋さんが、鎌倉のケーキをつくる方に店内で売ってもらったら、これまでその店に全く来なかった主婦層が行例を作ったという話だ。同じように区内の作家さんに、例えばお店の軒先など提供できないかと考えた。

神木本町に座禅会などを開催している等覚院というお寺があるが、例えばそこで地元作家の作品や朝穫り野菜などを販売してはどうか。情報を繋げば、新たな取り組みが生まれる。9月くらいに何かできないか。

これまで集まっていた方々に対して、何か入口を示したい。

老門委員 商店の方々がどう考えているかがまだ見えていない。外から話をもっていくても、なかなか具体化しないのではないか。これまで集まっていた方々に光を当て、場所などを提供していけると良い。ゆ〜ず連絡会の取り組みについてももう少し紹介いただけないか。

## ■クラフト市「ゆ〜ずパーティー」の紹介 資料4…川田委員長の説明

※以下は説明内容の要旨。その他の詳細は資料4参照

- ・ 若い人達に自ら企画いただき、連絡会でお金や機材・場所などの支援をした。
- ・ 会場の広さの関係で出店は六店舗。プロアマ交じって開催した。
- ・ 地域とつながった事でフォーラムから3か月でイベントの開催が実現した。
- ・ クラフト市のみでの集客は難しいと考え、模擬店なども展開した。はぐるまの会の福田さんにいろいろなお手伝い、助言いただいた。
- ・ 子ども達が遊んでいる「ディスクストラックアウト」は向丘出張所の備品をお借りした。
- ・ (写真で)バイオリンを弾いているのは学生の方。
- ・ 稗原小学校校長の紹介で車椅子の30代の方で、切り絵がとてもお得意という方も参加し、切り絵コーナーを設けて、子ども達に作品をプレゼントした。
- ・ バルーンアートを得意とする方も参加し、風船による会場の装飾や、ゲームに勝ったらバルーンアートをあげるコーナーも作った。
- ・ 装飾のバルーンは前日に作ったが、つくる場所、置いておく場所を連絡会で協議して、福祉施設の会議室を借りることができた。
- ・ テントは連絡会を通じて自治会やはぐるまの会のものを集めた。
- ・ 準備資金3万円を連絡会から提供した。テーブルクロス購入費、チラシの印刷費などに使われた。最終的には模擬店の売り上げ等で黒字だったようだ。
- ・ クラフト市参加者から出店料500円を徴収したが、売り上げは基本的に参加者の利益とした。
- ・ 区民会議をきっかけとしたモデルケースとして紹介してはどうか。
- ・ 本日、向丘地域の自治会連合会の会合でも、若い人達と地域をつなぎ、活躍の場を増やす取り組みとして「クラフト市」を開こうという話になった。

## ■意見交換(つづき)■

山部委員 事前PRはどのくらいおこなったのか。

川田委員長 連絡会に参加する7自治会へのチラシの回覧、町会掲示板へのポスターの掲示、稗原小学校の全家庭にチラシコピーの配布など行った。

山部委員 地域外の方にも情報がくれば、覗いてみようと言う人がいると思う。

川田委員長 初回については、事前PRは地元限定で行った。

コンサルタント ゆ〜ず連絡会の様な地域の自治会・小学校・福祉施設などが

一同に集まった連絡会が無い地域もありますが、町会と繋がることによってできた支援など、参考になる面も多いかと思います。

川田委員長 会場設営の協力なども大きかったと思います。テントを張るなどの人員は、若い人たちだけではなかなか確保できません。

来場者は、結構遠くからいらした方もいて、伺ったら「関係者と幼稚園が同じ」などだった。若い人は子どもの保育園や幼稚園で地域と関係なく繋がっていることも多く、LINEなどで連絡をとったようだ。

黒澤委員 区民会議をきっかけとした成功事例として、ぜひ紹介すべきだ。稗原ゆ〜ず連絡会はいろいろな繋がりができている。当日参加したが、会場の配置も良かったと思う。はぐるまの会の福田さんの存在も大きかった。

荒川委員 会場の緑地広場は前を通ったことはあったが、あんなに奥行があることを初めて知った。

佐藤部会長 これまでの会合には、商店街やスポーツクラブの方にもご参加いただいたが、お話が十分聞けなかった。今後伺っていきたい。

コンサルタント SHOP IN SHOP は販売を主とせずに、発表や交流を主とした場にし、佐藤部会長提案である作家連盟（仮）とうまくつなげられないか。前回の会合では鷺沼のスポーツクラブ、メガロスさんにスペースの提供に前向きな発言もいただいた。例えば、そこに作家連盟の展示や地域イベントの告知スペースを設けて、定期的に入れ替えてはどうか。

川田部会長 商店側の意見を聞くことが、私も必要だと思います。

影山委員 最終的なゴールをどこに設定するか。成功例を提示するだけでは十分ではなく、逃げ的看着られてしまわないか。

老門委員 向丘地域の自治会連合でのクラフト市の話はどれほど具体的なのか。

川田委員長 今日の会合で提案をさせていただき、ある程度理解と賛同をいただいたという段階だ。町連の委員会の一つとして、事業協力推進委員会が立ち上がり、私が委員長に就任した。その立場から提案させていただいた。

佐藤部会長 連盟をつくる事で、例えば地域のイベントに地域の作家さんが参加する機会が増えるような情報提供・共有をしていくイメージをしている。イベントは二次的に発生するものだ。

田辺委員 協議会の形にしてはどうか。我々があれこれ言うのではなく、集まった作家さんたちが自ら、長続きするようなくみをつくっていく必要がある。クラフト市に限らず、様々な活動がやっていければ良い。

佐藤部会長 連盟で何をするかは、集まってきた人達が決めていくものだろう。

影山委員 作家連盟の機能・活用として、イベントの事例など示せばよい。

田辺委員 地域で何か取り組みを進めようとした時には、企画や地域によってパートナーがそれぞれ違ってくるだろう。それで良いのではないか。

影山委員 神社のお祭りなども場の提供機会の例として考えられる。事例は一つでなく、いくつか出せば良い。柔軟な形が必要だ。

川田委員長 とりあえずの形は区民会議で示したい。そして、行政でどのようにそれを進めていただけるかだ。

田辺委員 協議会を進めていくのは 100%民間に近いイメージを持っている。フォーラムの参加者などを中心に組織化し、仮の事務所など決めて、来年度から動かせるような形にまで持っていければ意義がある。

事務局 区民会議は行政が提案として一旦預かって、そこから割り振るというスキームではない。任期中に作家連盟がスタートするきっかけづくりができると良いのではないか。

田辺委員 提案の内容によって、行政がやるべきもの、民間がやるべきものなど様々あるだろう。内容次第だ。

川田部会長 行政の後ろ盾はある程度必要ではないか。それで取り組みを進めやすくなる面もある。独立までの道筋が必要だ。

黒澤委員 こういう考え方はどうでしょうか？という提案になるのではないか。

佐藤委員 クリエイターの有志で任意の取り組みでは信用度が得にくい面がありそうで、雲散霧消してしまいそうだ。区民会議がバックボーンとしてあれば、信頼性が高くなると思う。

事務局 地域情報サイトなどと行政が協定を結ぶことで、行政がお金や人を出していなくても、情報や活動に一定の信頼性が得られることはある。

川田委員 参加者の方々にもう一回集まっていたら、趣旨を説明し、同意いただいて、「やってみよう」という形になれば良い。

コンサルタント 連盟の機能やしぐみなどの検討、明確化が必要だ。機能として例えば、地域のイベントに地域の作家を紹介する。会場・備品・企画などの相談にのる。地元の町会につなげる。これまでの会議で作家さんたちから、利用可能な会議・活動スペースの情報が欲しいという意見も出していた。

田辺委員 規約の様なもので目的、会員資格、権利と義務などを示すことも必要ではないか。宮崎台のさくらまつりには多くの団体が参加しているが、出店だけで運営を手伝わない団体が多い。フラットで言いあえる会、ただお客さんとして参加してもらっては困るというイメージを持っている。

事務局 イベントへの参加志向などは作家さんによってそれぞれで、聞いてみないとわからない。できるのは展開例を事例として見せる事ではないか。ゆ〜ずさん以外の事例も示せると良い。

佐藤部会長 リスト化が負担になってしまうと大変だと思う。もっとゆるやかなイメージ。「そういえばあの人に聞いてみよう」とお互いが連絡しあって、紹介しあったりすることで解決することができれば、良いのではないか。

事務局 事例を見て、同じ様にやってみたいという人が数人集まれば自然に動いていくのではないか。リストを作る作業は結構大変だ。

使用可能な施設をリスト化しようという取り組みが掲載の承諾などで苦労する例を見て来て、あまり建設的でないように感じた経験がある。

コンサルタント メガロスさんは何か地域イベント等はやっていないのか。

川田委員長 スポーツクラブは生活者ではない。協力してくれる商店街・商店はないか。

山田委員 人を集める商売なので、地域イベントをやって、会員が増えればメガロスさんにとってもやる意義はあるのではないか。

コンサルタント 職員や経営者は地域の方ではなくても、利用者の多くは地域の方ではないか。そこに地域の作家さんが絡んでいくのは意味がありそうだ。期間限定の形なども考えられる。

影山委員 区内に幾つかのスポーツクラブがある中、一つだけ優遇するような形にとられてしまわないか。公平性を確保しなければならないのではないか。

田辺委員 事例は探せば他にもあるのではないか。どのような事例を探すか。SHOP IN SHOP なのか？

コンサルタント 地域の寺社、福祉施設などが開催している既存のイベントの中に、ブース参加等できる余地があるものが結構あるのではないか。これまで参加いただいた方の中から、そこに合いそうな方を紹介して出店等してもらえればそれも連盟の機能のイメージ例になるのではないか。

事例は、あくまでモデルケースとして、他への拡大も視野に入れた取り組みとして行えば、特定の事業者等と組んでも問題はないのではないか。

事務局 ケーススタディとして、行政主導ではなく、民間の取り組みとして進めれば特に問題はないと考えます。

川田委員長 作家連盟の話で盛り上がっているが、運営の核となってくれる人をどう確保するかが心配です。マルシェの辻さんなどは本当に志と行動力のある方です。そうした方々にも来ていただいて、話をしてみたい。

佐藤部会長 連盟の構想について、説明する場が必要だと思います。

川田委員長 地域でお友達・お仕事さがしの第3回との関係はどう考えるか。

佐藤部会長 時間的にも限られている中、同じ場として企画してはどうか。

田辺委員 SHOP IN SHOP は個々のお店の対応の話にもなるので、難しい面がある。本来は期間限定ではなく、ずっと続けるもの。作家連盟を中心に進めてはどうか。ただ、タイトルは検討の余地がある。

老門委員 社協の会長さんのお寺、泉福寺で毎年イベントをやっており、地域のいろいろなお店が出ている例がある。

川田委員長 落語会なども開催されています。

老門委員 12月3日に宮前福祉フェスティバルという名称でイベントが開催される。市民館と区役所間の広場で地区社協や障がい者施設などがブースを出す。そこに一つのブースをだすことも考えられる。

事務局 商店ではなく、今意見の出た、お寺さんや社協の方々にも次回は参加いただき、場を一緒に考えていく方法もある。ただ、作家さんだけで集まった方が、話が拡散しないという考え方もある。

田辺委員 私は次回の参加者は作家さんだけに限った方が良いと思います。まず協会のコンセプトを固めて説明し、参加してもらえるかどうか。場所探しやイベントはその先ではないか。事例については必ずしも宮前区内に限らなくても良いのではないか。

荒川委員 区民祭で何かすることも考えられるのか？役所をさせていただき良い場だ。

川田委員長 まずは作家連盟構想を固めたい

田辺委員 次回部会で何か構想のたたき台があれば、話が進みやすい。

※事務局でこれまでの意見をもとに作家連盟構想のたたき台をつくり、次回議論の土台とする。

※たたき台の内容は構想の目的・活動内容・参加資格・事例など

※第3回地域でお友達・お仕事さがしの開催日程案は9月下旬とし、1か月以上前から、周知・広報を始める。事務局で9月下旬の会議室の利用可能状況など確認しておく。

※部会による検討の予備日として、8月21日（月）を設定した。区民会議の正式な会議でなく、任意の検討会として必要に応じて開催する。